

山口県病害虫防除所長

トビロウカの長期予報（技術資料第4号）について

本年のトビロウカの発生型予測について下記のとおり送付しますので防除指導の参考にしてください。

記

1 予報内容

(1) 対象地域 県内全域

(2) 今後の予測

ア 過去の発生データを利用した解析方法による予測結果は、「少発生型」になる確率が高い（発生型については参考資料を参照のこと）。

イ 本年は全体的に8月の早い時期から坪枯れが発生する可能性は少ないと予測される。その後も、坪枯れは少なく局所的な発生にとどまると予測される。

2 防除対策

(1) 本年は発生密度が低く、このまま推移すれば防除の必要性は低い。ただし、九州地区では多飛来も確認されており、県内の一部地域でも局所的に多飛来している可能性もある。防除は第1世代幼虫最盛期（7月24日～8月5日）にほ場で発生密度を確認の上、防除の目安を超えるほ場は直ちに防除を実施する。

(2) 防除適期

7月24日～8月5日頃（第1世代幼虫最盛期）

(3) 防除の目安

100株当たり20頭以上（成幼虫）

(4) 近年、アドマイヤー剤に対する薬剤感受性低下の事例報告があり、長期持続型箱施用剤を施用したほ場でも発生密度を確認の上、発生状況に応じ効果の高い薬剤により本田防除を的確に行う。

(5) 今後の発生予察情報に注意する。

3 発生状況

(1) 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は1.2%（平年4.4%）、10株当たり虫数は0.01頭（平年0.12頭）で平年並みであった。

(2) 飛来日は、6月30日(並)、7月3日(並)、9日(並)頃であったと推測されたが、主要飛来波はなかった。

(3) 予察灯での誘殺数（5か所、5月11日～7月11日）は、8頭（平年21頭）で平年並みであった。

4 今後の長期予報発表予定

8月2日、8月16日頃

<参考資料>
発生型の解説

		少発生型	9月発生型	8月後半発生型	初期多発生型
各発生型になる確率					
5月中旬移植		80%	10%	7%	3%
5月下旬移植		70%	16%	14%	0%
6月上旬移植		71%	7%	13%	9%
定義		全体的に発生量が少なく、発生ピークの不明瞭な発生型。	9月に入り、主に第3世代幼虫が増加し、発生ピークとなる発生型。	8月4～6半旬に、主に第2世代成幼虫が増加し、発生ピークとなる発生型。	8月前半に、主に第2世代の幼虫が急増する発生型。
発生の 模式図	密度				
	月	7月 8月 9月	7月 8月 9月	7月 8月 9月	7月 8月 9月
発生年の概要		少発生年に多い発生型 局所的に坪枯れが発生する	一部地域で多発生することがある発生型	多発生年に出現が多い発生型	激発生年に多い発生型
坪枯れ	発生時期	9月	9月上旬以降	8月下旬以降	8月中旬以降
	発生程度	極少～少	少	並～多	多
対策 (防除の目安を越えるほ場)		防除の目安を越える一部のほ場のみ防除し、他は防除の必要なし。	8月中下旬に防除を実施する。	7月下旬～8月上旬に防除を実施する。	7月中下旬に防除を徹底する。

注) 予測方法は、過去32年間における県予察ほ場(山口市大内)のウンカ類発生状況、飛来状況及び気象条件から本年の発生型を各移植時期別に判別した。

山口県農林業情報システム

	7月				8月						
	飛来日	10	15	20	25	1	5	10	15	20	25
トビイロウンカ											
○ 6月30日	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
○ 7月3日	AAA	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
○ 7月9日	AA	AAAAAA	---	---	---	---	---	---	---	---	---

調査月日 2006年 7月 14日
 凡例 A: 成虫 - : 卵 ○ : 幼虫 * : 防除適期
 ☆ 主要な飛来 ◎ 多飛来 ○ 並飛来 △ 少飛来

図 トビイロウンカの防除適期予測